令和６年度　第２回地域医療推進部会議事録

１　日　　時　　令和７年２月２５日（火）　第４回帯広市健康生活支援審議会終了後
　　１９：３０～２０：００

２　場　　所　　帯広市役所　１０階　第２会議室

３　出席委員　　稲葉 秀一 部会長、大滝 達哉 副部会長、中村 貴徳 委員、池添 博彦 委員、
　　住谷 晋 専門委員、岡山 有美子 専門委員、小岩 幹 専門委員、結城 和美 専門委員

４　会議次第
　（１）前回会議の議事録（案）の確認
　（２）令和７年度健康推進課関係予算（案）について
　（３）その他

５　会議内容
〇事務局
　みなさま、こんばんは。
　定刻となりましたので、ただ今から、令和６年度第２回地域医療推進部会を開会いたします。
　はじめに、本日の欠席委員について、ご報告いたします。増井委員より欠席のご連絡をいただいております。本日の地域医療推進部会、委員９名中８名のご出席をいただいており、出席人数が委員の過半数に達しておりますことから、本日の部会は成立しております。
　それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

◎部会長
　それでは、次に「前回の会議の議事録(案)の確認について」を議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

　【質疑・意見なし】

◎部会長
　なければ、議事録は了承されたものといたします。

◎部会長
　次に、「令和７年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。事務局から、説明願います。

〇事務局
　それでは、令和７年度の健康推進課関係予算（案）につきまして、説明させていただきます。資料は１

と２になります。資料１から説明させていただきます。令和７年度の健康推進課関係予算（案）でありますが、予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。

まず、表の右側に、令和７年度予算を記載しております。Ｂ欄につきましては、人事課所管の職員給与費へ振替を行なった、健康推進課会計年度任用職員の報酬等の予算となっております。

左側の事業区分と、右側の令和７年度予算額につきましては、Ａ欄をご覧いただきたいと思います。

まず、上から、保健衛生総務費が、４億４千９３２万円、そのうち、主なものでは、保健衛生推進費７７９万７千円、公衆浴場対策費１千２００万円、看護師等養成機関確保対策費８千５７２万８千円、帯広厚生病院運営費補助事業費２億１千万円となっております。

前年度と比較しての、増減の主なものとして、保健衛生推進費については、骨髄バンク事業において、骨髄等を提供した方の休業等による経済的負担軽減を目的とした助成金を交付する「帯広市骨髄バンクドナー助成事業」を、令和７年度から新たに実施するため、増となっているものです。

なお、妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、令和２年度より組織再編のため健康推進課関係予算として計上しておりますが、従前より児童育成部会で説明していることから当部会においては、予算額のみお示しすることとさせていただきます。

続きまして、夜間急病診療費は、２億２千６８８万３千円となっております。内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、１億９５６万２千円、在宅当番や二次救急医療などの救急医療対策費が、１億１千７３２万１千円となっております。

前年度と比較しての、増減の主なものとして、休日夜間急病センター管理運営費については、利用者の減少により利用料金収入の減少が見込まれることから、当初予算において指定管理料の補填額を計上したため、増となっているものです。

また、救急医療対策費のうち、二次救急医療については、令和７年度より新たに土曜日の当番体制を整備したことに伴い、委託料が増となっているものです。小児救急医療支援事業については、同じく二次救急医療体制の整備等に伴い、増となっているものです。

続きまして、予防費は、総額で６億５千２４０万２千円となっており、主なものといたしましては、がん検診・健康診査費１億５千２９１万８千円、予防接種費３億４千８７３万９千円、感染症予防費１億４千７３０万６千円、健康教育費２４５万４千円、などとなっております。

前年度と比較しての、増減の主なものとして、がん検診・健康診査費については、集団検診の検診単価が増加したことなどにより、増となっているものです。予防接種費については、令和７年度から定期接種化される帯状疱疹の予防接種に係る予算を新たに計上していることにより、増となっているものです。

感染症予防費については、新型コロナワクチンの定期接種に係る予算を令和６年度は補正予算で計上しておりましたが、令和７年度は当初予算で計上していることなどにより、増となっているものです。

最後に、保健福祉センター費として、４千６０５万６千円を計上しております。こちらは、保健福祉センターの管理運営に要する費用でございます。保健福祉センター整備費については、電気設備の高圧機器の更新費用を計上しているものでございます。

以上、総事業費は、Ａ欄の歳出予算合計１３億７千４６６万１千円となります。

続きまして、資料２、「令和７年度健康推進課関係事業の概要（案）」をご覧ください。こちらは、資料１の内訳となります。左側の、保健衛生総務費は、４億４千９３２万円で、医療体制の整備や医療の人材不足への対応のほか、公衆浴場対策、健康まつりや健康づくりのボランティアの養成、育成など市民の保健予防の推進のための予算となっております。

中央の、予防費は、６億５千２４０万２千円で、胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの５大

がんの検診のほか、各種健康診査、予防接種や感染症予防、結核予防など、疾病の予防、早期発見のための経費と、健康相談、健康教育、訪問指導の経費を計上しております。
　右側の夜間急病診療費は、２億２千６８８万３千円で、休日や夜間における急病患者に対する診療体制を確保するため、初期救急を担う在宅当番医のほか、二次救急医療や休日歯科診療などの体制確保に必要な経費を計上しております。
　右側下の保健福祉センター費は、４千６０５万６千円で、保健福祉センターの管理運営に要する費用を計上しております。

　説明は以上でございます。

◎部会長
　ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

◎委員
　資料１の予防費の保健・介護一体的実施推進事業について、具体的にどんな取り組みになりますか。また、予算が少し減っていますが、高齢に伴う疾病が多くなっていく中で、重要な取り組みだと思いますので、先の見通しについて教えていただけますか。

〇事務局
　令和５年度から、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施という事業を実施しており、各自治体によって地域の実情に応じた課題を抽出して取り組むものであり、帯広市においては後期高齢者の糖尿病の重症化予防を課題とし、取り組んでおります。
　来年度予算に若干の減はありますが、事業そのものが縮小したわけではなく、それに関わる経費等を見直して減となったものであり、基本的には今年度の取り組みをさらに充実させる内容となっています。特に高齢者において、薬・医療の治療だけではなく、生活習慣も治療の一つというところで、保健と医療の連携を主なテーマに、来年度１年間取り組んでいくという考えにしています。
　ただ、地域によって様々な課題がありますので、帯広の場合は糖尿病に着目して実施しておりますが、例えば低栄養、骨折予防、健康状態を全く把握できない高齢者が一定程度いるということで健康不明者の把握事業など、その自治体によってそれぞれの課題を整理しながら取り組みを進めているものになりますので、帯広市においても未来永劫ずっと糖尿病対策にということではなく、一定程度、体制が整い、課題の進捗が見えた段階で、また違ったテーマに目を向けながら取り組んでいく考えでおります。

◎委員
　現場にいて、高齢者の方が、足裏の感覚が悪く、転びやすくなる症状があり、そういった方に限って、あまり医療機関にかかっていない状況があるのですが、今回、糖尿病にフォーカスしたのは、リサーチしたうえでピックアップしたということでよろしいですか。

〇事務局
　事業開始の令和５年度の前、令和３から４年度にかけて、健康推進課の他、介護予防を実施している地域福祉課、介護高齢福祉課それから国保課というところで、介護保険料の現状や医療費の現状、またその対象となる人の状況を分析した上で、最も優先して取り組むべきところというところで、今回は糖尿病と

なっておりますが、おっしゃる通り他にも課題はあると思いますので、今後進めていく方向で考えております。

◎委員
　高齢者の糖尿病治療について、全員が厳密に糖尿コントロールのために制約をかけ、積極治療を行っている状況ではないところもあるかと思いますが、事業との兼ね合いについて、どうお考えですか。

◎部会長
　北海道医療計画の中でも糖尿病の重症化予防がうたわれていますし、歯科医療に関しても糖尿病のことで集学的に治療するということも入っていると思います。
　そういうことを踏まえて、帯広市さんはいくつかのテーマの中から、この糖尿病の重症化予防ということを選ばれたのだと思います。それを検証して、またその次の時には別のテーマを考えられると思いますので、委員のおっしゃるようなことを意見として市に入れていただければありがたいと思います。

◎委員
　糖尿病対策は、後期高齢者が対象者となっているが、前期高齢者の時から取り組んだ方が望ましいと思っており、高齢者への取り組みへの考えについて、確認させていただきました。ありがとうございます。

◎部会長
　他に、ご質問やご意見はございますか。

◎委員
　エキノコックス症の予防とありますが、キツネのエキノコックス保有率はどのくらいでしょうか。
　また、対策や駆除の状況についてはどのようになっていますか。

〇事務局
　今、保有率は持ち合わせておりませんが、エキノコックス症検診では、帯広市で一次検査を実施しており、その予算を計上しています。潜伏期間が約 10 年で、５年に１回受けられる検査となっており、帯広市で検査を受けた方で陽性だった方は、直近 10 年くらいはいません。
　対策としては、基本的にはキツネに餌付けしないようにし、なるべくキツネが近寄らないような対策を取っていただくことになります。キツネの個体数を減らしていくのは難しい部分もあり、年間 300 頭くらいは駆除していますが、キツネはある程度出てきてしまう状況にあります。

◎部会長
　帯広は畑に囲まれていますので、シカやキツネも同じく、それ自体をなくすことは物理的に難しいと思います。今、お話がありましたとおり、エキノコックスがどのような経路で感染するか、情報を周知して予防していただくことが重要だと思います。

◎部会長
　他に、ご質問やご意見はございますか。

◎部会長
　帯状疱疹の予防接種の予算について、対象者の何割ぐらいを目途にされているのか、また、新型コロナウイルス予防接種の予算は、対象者の何割ぐらいを目途に立てられているか、もし分かれば教えていただければと思います。

〇事務局
　帯状疱疹の方は対象者が５歳刻みの年齢で 65 歳から５歳ずつの 65 歳、70 歳、75 歳という形で対象になり、その対象者の 20%を見込んで予算を計上しています。新型コロナウイルス予防接種は、今年度の実績等も踏まえ、対象者の 13%を見込んで計上しております。

◎部会長
　ありがとうございます。他に、ご質問やご意見はございますか。

◎委員
　ピロリ菌について、今の若い人も持っているものなのでしょうか。
　また、ピロリ菌対策について教えてください。

◎部会長
　若い人も保有しているため、小学生から中学生にかけてピロリ菌検査をしています。

〇事務局
　陽性率は 5%から 6%となっております。
　ピロリ菌は胃がんの原因となり、40 歳以上ですと、胃がん検診を実施していただいたり、職域の人間ドックなどでピロリ菌の有無を確認して、保有していれば除菌となります。中学生の場合、尿検査で分かるものになります。もし陽性となった場合は除菌し、若いうちからピロリ菌自体を保有しないことで胃がんを予防するという考え方で実施しております。

◎部会長
　後はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
　なければ、この議題については終わらせていただきます。
　次に、その他について、委員の皆様から何かありますか。

　【質疑なし】

◎部会長
　ないようですので、事務局の方からお願いします。

〇事務局
　次回の地域医療推進部会についてなんですけれども、日程につきましては、また会長とご相談させていただいて、調整の上、委員の皆様にご案内をさせていただくということとしておりますので、よろしくお願いいたします。連絡事項は以上です。

◎部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。本日は、これで閉会といたします。

ありがとうございました。